

※クリックすると記事のページを開きます。

①日本語インターシップ報告（2016-17 年）：国際交流基金日本語パートナーズ「海外日本語インターンシップ・プログラム」	2
②ジョイントエデュケーション報告（派遣 2017 年）：資料情報（JEP 報告 王立ブノンペン大学 2017 年 7 月）	5

①日本語インターシップ報告（2016-17 年）：国際交流基金日本語パートナーズ「海外日本語インターンシップ・プログラム」

・報告者

調邦行さん：大学院博士前期課程での研究テーマは、カンボジアの仏教界で改革を行い、また国語辞典を編纂したことで偉人とされている僧侶チュオン・ナート（1883-1696）について研究している。

・派遣期間

2016 年 9 月 10 日～2017 年 3 月 18 日

・派遣先概要

王立プノンペン大学（RUPP）日本語学科



・教授陣

カンボジア人 8 名、日本人専任 2 名

・学生数

1 年生：6 クラス（190 名）、2 年生：2 クラス（154 名）、3 年生：5 クラス（127 名）、4 年生：2 クラス（82 名）。日本語学習の動機としては、日本企業への就職、日本語教師になりたい、日本に留学したい等。

・担当授業

基礎日本語：51 時間（34 コマ）『みんなの日本語 1』『基礎漢字 500』、

作文 3：25.5 時間（17 コマ）『表現別テーマ別にほんご作文の方法』、

読解 3：51 時間（34 コマ）『日本語中級 J301〈基礎から中級へ〉』、

日本史：25.5 時間（17 コマ）『留学生のための日本史』、

発表・討論：25.5 時間（17 コマ）『アカデミックプレゼンテーション入門』、

日本社会Ⅰ（同授業を 2 回）：25.5 時間（17 コマ）、

日本文学Ⅰ：25.5 時間（17 コマ）『レベル別日本語多読ライブラリーレベル 4』

・日本語能力のレベル

1年生：初級（約3分の1は入学前に約半年日本語学習経験有り）、3年生：中級レベル（約10% N3取得）、
4年生：中級～上級レベル（約30% N3取得、約10% N2取得）。

Q:授業で工夫した点は？

A:主に3点ある。1点目は、学生は読解が不得意なので、毎回の授業では教科書以外に日本語能力試験 N3 の過去問題を数問解く時間を設けた。これにより学生の日本語能力試験、特に読解に対する意識付けとポイント教授を行うことができた。

2点目は、「日本社会Ⅰ」の授業で、日本の税金制度、少子高齢化社会、若者の結婚感などをテーマとした授業を行い、テキスト通りの授業では知り得ない日本社会に関する知識を教授できた。

3点目は、作文添削に力を入れた結果、弁論大会応募作文（59件）からの出場者選定において、出場者枠14名中作文担当クラスの学生6名が選考されたことである。

Q:課外活動への参加は？

A:弁論大会の企画、準備、実施の主担当となり、2017年2月25日に約150名が参加した。



また、毎週土曜日に大学内ステージで空手指導（各回25名）、日本語学科運動会（2016年11月25日、約300名）、大学紹介キャラバン（2016年12月22日、および24日、各50名）、を行った。



同キャラバンは、毎年12月、日本語学科教員が手分けしてキャラバンを組み、カンボジアの主要都市の高校に行き、RUPP 日本語学科の紹介を行うことが恒例になっている。訪問した2高校では日本の紹介DVDを見せたり、日本に関するクイズに答えさせたり、簡単な日本語会話や折り紙、浴衣の着付けなどを教えた。

カンボジアの高校生に日本という国と日本語に対する興味を持たせる上で、このような地道な活動が必要且つ重要であることを認識した。



Q:日本語教師に必要なことは？

A:日本語教育に関する専門知識を備え、それを更に向上させるべく常に学び続けなければならないのはもちろんのこと、学生のレベルやその国の特性に合わせた効果的な教授法を研究することも必要である。

更に、このような技術面と併せて、所属する日本語教育組織の実情を把握し、ローカルの教師の相談役になり、組織全体の教育能力の向上やシステムの且つ合理的な組織運営にも寄与できるような力を備えることが望ましい。

Q:滞在中の研究は？

A:研究レポートとして「カンボジア人大学生日本語学習者の読書量と作文力との関係―第1言語作文内容と第2言語作文内容との比較を通して―」を執筆した。「日本社会Ⅰ」の全受講者（82名）に読書量に関するアンケート（カンボジア語）を行い、さらに「日本社会Ⅰ」を勉強して、私が考える20年後のカンボジア社会」というテーマで日本語（600字以上）およびカンボジア語（制限なし）で作文をさせた。

その結果、「読書経験は作文力に関係する。特に内容力に影響を与える」という結論に至った。読書すなわち作文力ということではなく、思考力、想像力、表現力など読書を通して付随的に培われる能力が作文力に作用する。それらの能力養成はカンボジアの基本教育そのものの問題ではあるが、大学において課題図書を読み、レポート作成することを通して、能力向上させることは可能である。

②ジョイントエデュケーション報告（派遣 2017 年）：資料情報（JEP 報告 王立プノンペン大学 2017 年 7 月）

報告者 岡野朱里

ジョイントエデュケーションの際に調査したクメール語学関連文献の閲覧、入手を中心に報告する。

①王立プノンペン大学附属図書館 <http://www.rupp.edu.kh/center/library/>

大学キャンパス内の一角にあり、現首相の名からフンセン図書館と呼ばれている。館内はカテゴリーごとに分類されている。ただし、蔵書はクメール語以外の言語で執筆されているものの方が多かった。また、学生が読書や勉強をしやすように机と椅子が設置されており、訪れた際には授業期間ではなかったものの多くの学生が利用していた。

②王立アカデミー <http://www.rac-academy.edu.kh/>

国際空港に程近いロシア連邦大通り沿いにあり、敷地内には A 棟から I 棟まで 9 つの建物が建っている。今回訪れたのは E 棟にある国語研究所及び H 棟の附属図書館である。附属図書館はそれほど大きい建物ではないが、アカデミーで発表された論文が保管されており、どのような研究が行われてきたかを知ることができた。



③公文書館、国立図書館

公文書館と国立図書館は隣接していて、公文書館が古い文献や資料を保管している一方、国立図書館は比較的最近の書籍が主である。公文書館では入り口で記名した上で、閲覧したいものを伝える。書籍の状態により、取り扱いには注意が必要である。資料には番号が付けられ分類されているため、館内のパソコンでキーワードを入力することで簡単に探すことができた。国立図書館の場合は、当日イベントが開催されていたこともあり、入り口で声をかけただけで簡単に入ることができた。カテゴリー別に様々な書籍が並んでいたが、多くは英語やフランス語で執筆されたものであった。



④仏教研究所 <https://www.budinst.gov.kh/>

公文書館と同様、入り口で記名する必要がある。蔵書数は他の大きな図書館と比較すると多くはないが、その名の通り仏教に関する書籍は多数保管されている。国語辞典を編纂したことで知られる僧侶のチュオン・ナート師による著書を閲覧することもできた。

⑤議会図書館

通常、関係者以外が敷地内に立ち入ることはできないが、今回は職員の方が案内するという条件で入ることができた。敷地内には議会や事務所、図書館等の建物はもちろん、広々とした庭もあり、遊歩道も整備されていた。図書館では様々な書籍が所蔵されていたものの、言語学に関する資料はほとんどなかった。

プノンペン市内の書店は、英語で執筆された本が多かったが、小説や民話等の文学作品はクメール語のものも多く取り扱っていた。規模の小さな店舗まで含めると、あちこちに書店と呼べる場所はある。ただし、多くは文具や雑貨、おもちゃといった書籍以外を主として取り扱っているようであった。以下、訪れた主な書店の情報である。

①IBC (International Book Center)

・Address: No.250, Street 93, Boeung Raing Commune, Daun Penh District, Phnom

Penh, Cambodia

・Tel: +855 (0)23 221 799／+855 (0)23 221 788

・E-mail: info@ibc.com.kh／sales@ibc.com.kh

・Website: <http://www.ibc.com.kh>

②PBC (Peace Book Center)

・Address: No.435, Street 93, Boeung Keng Kang 2 Commune, Chamkar Mon District, Phnom Penh, Cambodia

・Tel: +855 (0)23 222 299, Fax: +855 (0)23 222 168

・E-mail: info@pbc.com.kh／sales@pbc.com.kh

•Website: <http://www.pbc.com.kh>

③Monument Books

•Address: No.111, Street 41, Chak Tomuk Commune, Daun Penh District, Phnom Penh, Cambodia

•Tel: +855 (0)23 217 617／+855 (0)23 210 813

•E-mail: info@monument-books.com

•Website: <http://kh1435.jp.com.kh/>

④PDH Book Shop

•Address: No.148, Street 41, Phnom Penh, Cambodia

•Tel: +855 (0)23 63 63 033, Fax: +855 (0)23 214 474

•E-mail: info@pdhcambodia.com

•Website: <http://www.pdhcambodia.com/>

その他、市場（セントラルマーケット、オルセーマーケット、ロシアンマーケット）内にも書店がある。特に、建物全体が市場となっているオルセーマーケットは、1 つの階に本を扱う店が所狭しと並び、活気にあふれていた。